



坪生小学校の児童・先生との取組が中国新聞に掲載されました！！

2025年(令和7年)10月22日(水曜日) 中国新聞 福山版



卒業植樹の桜 キーホルダーに



キーホルダーになる木の板を紙やすりで磨く児童



キーホルダーのデザインは全部で7種類ある

福山の坪生小6年生伐採した幹活用 26日に催し卒業生らに販売

世代を超え、学校の思い出を手元に残す。福山市坪生町の坪生小6年生92人が、同小のシンボルだった桜の木を使ったキーホルダー作りを取り組んでいる。作品には絵や文字をあしらったイベントで卒業生や住民たちに販売。学校への愛着を持ち続けてもらい、地域活性化にもつながりたいと考えた。

(福山要員美)

今月上旬、6年生は3クラスの各教室で、手のひらサイズの木の板を紙やすりで丁寧に磨いている。材料は、1986年度に丸や花びら形の板に記念樹。満開の桜は写真やイラストになり、児童や

保護者に親しまれた。しかし植樹から40年近くたつて校舎2階に届くほどの高さになり、土中に張った根が石垣を崩壊するようになったため、惜しまれながら昨年1月に伐採された。

保存していた幹の一部の活用方法を校長が募ると、6年生が手を挙げた。学年集会で話し合いを重ね、2代々の卒業生たちにどうして思い出深い木を

福山市などは10月3日午前10時～午後4時、市内で5日間にわたる世界バラ会議福山大会を振りかざす記念イベントをばら公園(花園町)で開催。大会記念バラの植樹のほか、バラに関するトークショーやグッズの販売などを計画している。

来月3日にイベント
記念植樹やトークショー

キーホルダーの企画～製作にご協力させていただきました。

「当たり前の存在だった桜の木がなくなってしまうのが残念。坪生ならではの思い出の形ができればいい」と卒業生の母藤子さん(45)は「自分も娘も一緒に写真に納まった木。活用されると嬉しい」と語った。約千個を用意し、26日に同小である「つぼみ」で販売フェスティバルで1個600円で販売する。収益は中庭の手入れ(活用)、バラなどの花の植栽や観音池の再整備に活用する。佐藤謙次さん(41)は「桜の木に代わる思い出の場にして、多くの人や卒業生に訪れてもらいたい」と期待している。

(手前左と
右は岡本代表)

職員の名札平仮名に

27日(水)尾道市「名字」大会で、職員の名札の表紙に、平仮名のフルネームを記し、職員の名前だけを平仮名で記すように変更する。職員が理不尽な要求を受ける「カスタマー」が全

